

【講座レポート】女性のための今日から使える雑学講座①

当センターで今年度から始まった「女性のための今日から使える雑学講座」。これは、女性が安心して生活できるよう、年金や相続など暮らしに役立つ様々な情報を提供する4回の連続講座です。

女性の貧困という言葉をよく耳にします。55歳以上の単身女性の4人に1人が年収120万円未満というデータ(※)もある中、お金についての知識は一層重要になっています。

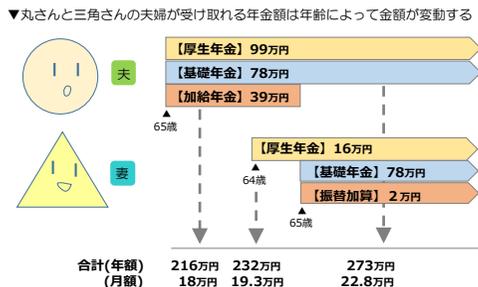
※ 2008年「高齢男女の自立した生活に関する調査結果」(内閣府男女共同参画局)

第1回は、年金制度と個人年金について学びました。まず、老後の生活費を確認。続いて、具体例を交えた年金制度の説明が。下記に、会社員の夫と専業主婦の妻の一例を載せました。自分のケースをあてはめて計算しないと具体的な金額は出てこないのですが、「ねんきんネット」を利用すると大まかな年金額の試算ができます。



▲ねんきんネット

～ある会社員丸さんと妻の三角さんの例～



参考 (公財)生命保険文化センター「ねんきんガイド」2017年9月改訂版

夫 丸さんのプロフィール
 ・昭和36年4月生まれ(56歳)
 ・24歳で建設会社に就職。60歳で退職予定
 ・厚生年金の加入期間36年間(予定)。20～23歳までの4年間は国民年金に加入。
 ・在職中の平均年収500万円。
 ÷12(平均標準報酬額)41.7万円

妻 三角さんのプロフィール
 ・昭和40年5月生まれ(52歳)
 ・10年間会社勤務、現在は専業主婦
 ・厚生年金に10年加入、国民年金に合計40年加入(予定)
 ・在職中の平均年収300万円
 ÷12(平均標準報酬額)25万円

女性、こころの悩み電話相談 ☎ 047-485-7333 (相談専用電話)

つらい、苦しい、眠れない…。あなたの悩みを、専門の女性相談員が匿名でお聞きします。

●受付 毎週火・木・金曜日 午前9時～午後4時(祝日・年末年始12月27日～1月4日を除く)

※電話がつながりにくい場合は、時間をあけて再度おかけください。

男女共同参画だより やちよべあ (No.36 平成30年晩夏号)

【発行】八千代市男女共同参画課

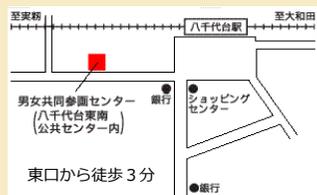
電話：047-485-7088

FAX：047-485-7398

所在地：八千代市八千代台南1-11-6

(八千代台東南公共センター4階)

八千代市男女共同参画センターHP



「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」ができました

男女共同参画だより



No.36
平成30年
晩夏号

今年の5月、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」(以下、「推進法」と表記)が施行されました。どのような法律なのでしょう。今回のペアでは、政治分野の男女共同参画の状況を見ていきたいと思います。



やちよべあキャラクター ペア

日本は世界で114位

「114位」とは何かご存知ですか。日本の2017年「ジェンダーギャップ指数」の順位です。この指数は世界144か国の経済・教育・保健・政治分野での男女格差を表したものです。

右の表をご覧ください。0が完全不平等、1が完全平等を意味します。日本は前年111位。今年は順位を3つ下げており、特に経済活動や政治分野での遅れが際立っています。

政治分野では、日本はどのくらい遅れているのでしょうか。日本の衆議院の女性議員割合は約1割(※)。G7の中で最下位となっています。

※ 女性の政治参画マップ2018 (内閣府男女共同参画局)



2017年 ジェンダー・ギャップ指数の国際比較 (一部抜粋)

順位	国名	スコア	分野ごとのスコア			
			経済	教育	保健	政治
1	アイスランド	0.878	0.798	0.995	0.969	0.750
2	ノルウェー	0.830	0.816	0.999	0.973	0.530
3	フィンランド	0.823	0.793	1.000	0.978	0.519
4	ルワンダ	0.822	0.820	0.951	0.980	0.539
5	スウェーデン	0.816	0.809	0.999	0.969	0.486
6	ニカラグア	0.814	0.702	1.000	0.980	0.576
7	スロベニア	0.805	0.801	1.000	0.980	0.440
8	アイルランド	0.794	0.710	1.000	0.971	0.493
9	ニュージーランド	0.791	0.768	0.998	0.969	0.430
10	フィリピン	0.790	0.764	1.000	0.979	0.416
11	フランス	0.778	0.683	1.000	0.977	0.453
12	ドイツ	0.778	0.720	0.970	0.975	0.447
15	イギリス	0.770	0.705	0.999	0.971	0.404
16	カナダ	0.769	0.744	1.000	0.970	0.361
49	アメリカ	0.718	0.776	1.000	0.973	0.124
71	ロシア	0.696	0.724	0.997	0.980	0.085
82	イタリア	0.692	0.571	0.995	0.967	0.234
100	中国	0.674	0.654	0.963	0.918	0.160
114	日本	0.657	0.580	0.991	0.980	0.078
118	韓国	0.650	0.533	0.960	0.973	0.134

「The Global Gender Gap Report 2017」(世界経済フォーラム)

候補者をできる限り均等に

女性議員が少ないと、女性の意見が政策に反映されにくく、男性議員の意見が取り入れられやすくなります。このような状況を踏まえ、推進法が作られました。

右の3つの基本原則のもと、選挙で男女の候補者数ができる限り均等になることを目指し、政党に自主的な取り組みを求めることなどが定められています。

～推進法 3つの基本原則～

1. 衆議院、参議院及び地方議会の選挙において、政党等の政治活動の自由を確保しつつ、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指して行われるものとする
2. 男女がその個性と能力を十分に発揮できるようにする
3. 家庭生活との円滑かつ継続的な両立が可能となるようにする

やりたいという気持ちは押さえつけないで
「いつか」という思いはなくさないでほしい



ノンフィクション作家・フリーアナウンサー
山内 喜美子 さん

子どもの頃にどんな夢があったか、みなさんは覚えていますか。大人になると、子育てなどで夢を追うのを止めたり、年齢的に難しく思えてしまったりします。

今回のべあでは、小さな頃から学びたかった歌をあきらめないで、東京藝術大学を40代で受験し合格、卒業された山内喜美子さんの体験談を伺いました。



山内 喜美子さん プロフィール

アナウンサー、週刊誌記者を経て、1991年に「告知せず」（文藝春秋）で作家デビュー。「世界で一番売れている薬」（小学館）では小学館ノンフィクション大賞優秀賞受賞。生老病死をテーマに著作、講演を行うほか、コラムやエッセイの執筆、フリーアナウンサーとしても活動中。2009年、46歳で東京藝術大学入学、2013年卒業。八千代市在住。



また歌に出会う

フリーランスになった後、新聞で「サントリーホールで第九を歌う」という記事を見たのをきっかけに合唱団に入り、もう一度、歌を始めたんです。その後、結婚し娘が生まれ、仕事と子育ての両立でしばらくは合唱団に参加できなかったのですが、娘が小学校に上がった後に復帰しました。

「メサイア」※の演奏会前日に38度の熱を出し、当日フラフラで舞台上に立った日のこと。歌っているうちに気分が高揚してきて、このまま昇天するのは、というようなエクスタシーの世界に入ってしまった。その時に、やっぱり歌っていいな、歌っている時が一番生きている実感があるなと気づき、歌をやらないとだめだと強く思いました。

※メサイア：ヘンデル作曲のオラトリオ（宗教的内容をもつ長い物語を、劇風に編成した作品）

一番やりたかった音楽をやらないと、残りの人生は悔いを残したままで、楽しくないだろうという気持ちもあり、合唱だけでは飽き足らなくなってきたので、本格的な音楽のレッスンに通い始めました。

計画的に実行

中学生の頃抱いた、藝大に行きたいという思いは、30余年経っても、ずっと心のどこかにありました。娘がもう少し大きくなったら受験できないかな、という思いがあったんです。様々な仕事を一所懸命やりお金を貯めて準備し、1~2年が経ったころ、先生と家族に「受験したいと思っている」と勇気を出して伝えました。

話を聞いた夫は、家事との両立や経済的な面での不安・懸念から、両手を挙げて賛成してくれたわけではありませんでした。でもいざ入学すると、娘がデザインで藝大を志望するようになったこともあり、理解を示してくれるようになりました。

試験勉強

藝大はセンター試験があるので、英語や古文の勉強から始めなくてははいけませんでした。40代になって始めたので肉体的にきつく、また、仕事をしながらで娘の中学受験もあったので、優先順位を付けて取り組みました。まず、娘を絶対志望校に入れる。次に自分の仕事をしっかりこなす。その間に勉強をしていました。

私、藝大を4回受けているんです。センター試験で点を取れても、歌の試験で緊張して歌詞を忘れたり、声が出なかったりで声楽科は2度失敗。でも、どうしても藝大に行きたかったので、勉強を続け、4度目の受験で薬理科に合格しました。発表の時は、やった、というよりもホッとした気持ちの方が大きかったかも。



準備が大切

やりたいことがあったら、「やりたい」という気持ちは押さえつけないで、「いつか」という思いはなくさないでほしいと思うんですね。

例えば、お子さんの独り立ちや、介護が終わった、夫の定年、いろいろタイミングがあると思うんですが、今だ！と思ったらぜひ踏み出してほしいと思います。それが唯一のチャンスかもしれないし、「やったもの勝ち」ですよ。いつか「やって良かった」と思う日が来るので、ぜひ希望を捨てずに、お金の準備や勉強など、今できることから始めてみると良いと思います。いざその時が来たときに、準備をしていなければ踏み出せないじゃないですか。いきなりセンター試験を受けるわけにはいかないので。

夢を叶えるためのスタートは、いくつになっても切れます。時間を有効に使って、諦めないで頑張ってください。



音楽はあきらめ、別の道へ

ところが「お金がかかる」と、母から音楽の道に進むことを反対されてしまったんです。それで、音大はあきらめて一般大学に進学し、卒業後は放送局に就職しました。その後、週刊誌の記者を経てフリーランスになり、ラジオに出たりイベントの司会をしたり、原稿を書いたり、マイクとペンの二本のわらじで現在まで仕事をしています。